



2021年11月28日(日)

明治大学黒曜石研究センター / Center for obsidian and lithic studies
資源環境と人類 2021 シンポジウム

信州黒曜石フォーラム第4回例会

黒曜石研究の新動向

— 原産地推定法をめぐって —

【開催にあたって】

1994年にエネルギー分散型蛍光X線装置を用いた新たな判別指標と「全点分析」が提唱されてから、すでに30年近くが経過しようとしています。この間、多くの黒曜石製石器の原産地が明らかにされてきましたが、この方法は機器固有のX線強度に依存しているため、互換性がなく、相互検証ができないという問題点を含んでいました。しかし海外では幾つかの研究機関を拠点として、定量値にもとづく原産地推定が一般的になりつつあり、国内においてもその実用化に向けた独自の試みが始まっています。

また長野県和田地域のように、長期にわたる噴火活動が狭い範囲で継続した産地では、蛍光X線分析による判別群(産地名)に複数の産出地が含まれてしまうという状況があり、「産地名」との齟齬が生じています。この複雑な状況を、晶子形態分析をはじめとする顕微鏡観察によって解きほぐそうという試みもスタートしています。

今回のシンポジウムでは、こうした推定法の新たな動向を紹介し、その課題と今後について検討します。

【申し込み方法】

このシンポジウムはZoomにて行います。参加希望の方は、件名を「シンポジウム申し込み」とし、氏名・所属を明記して下記メールアドレスの明治大学黒曜石研究センター(担当:山田)までお申し込みください(11月23日締切)。折り返しバスコード等をご案内します。

E-mail: meiji.cols@gmail.com

【プログラム】

司会 池谷信之・大竹憲昭 (Zoom開催 定員200名)

12:40~12:45 開会挨拶

12:45~13:15

池谷信之 「黒曜石原産地推定法をめぐる研究動向 - 1994年以降を中心に -」

13:15~13:45

中村由克 「黒曜石の顕微鏡観察、晶子形態にもとづく原産地推定の可能性」

13:45~14:15

島田和高 「携帯型蛍光X線分析装置(p-XRF)を用いた黒曜石原産地出土石器の成分分析 - 検量線法による原産地推定の実践と課題 -」

14:15~14:45

金井拓人 「装置非依存式の非破壊原産地推定に向けて」

14:45~15:15

隅田祥光 「黒曜石の原石試料を用いた標準試料化についての取り組み」

15:15~15:45

保坂康夫 「原産地推定結果にもとづいた剥片・石核属性の全点分析とその成果」

15:45~16:00 休憩

16:00~16:55 討論

16:55~17:00 閉会挨拶

主催 明治大学黒曜石研究センター・信州黒曜石フォーラム事務局

〒386-0601 長野県小県郡長和町大門3670-8
TEL 0268-41-8815